

令和2年度 山形県立山形東高等学校 学校評価書（自己評価・学校関係者評価）

- 学校の教育目標 1 創造力に富み、心豊かでたくましい人間の育成 2 自主的・自律的に行動できる、個性豊かな人間の育成 3 広い視野を持ち、国際社会に貢献できる人間の育成
- 本年度の重点目標 1 いのちの教育と生徒指導の充実 2 探究型学習の推進による学力の向上 3 進路指導の充実とキャリア教育の推進 4 地域連携の促進と郷土愛の醸成 5 健康の保持・増進と安全・安心な学校づくり 6 読書習慣の形成と感性教育の推進
- 本年度の評価 【評価基準 A：達成できた B：ほぼ達成できた C：あまり達成できなかった D：達成できなかった】

領域	重点目標	具体的目標・評価指標	自己評価	今年度の成果と課題	次年度への改善点	学校関係者評価	学校関係者の意見・要望
学習指導	<p>【探究型学習の推進による学力の向上】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 自立した学習者を育成するため、自ら課題を発見し解決を図る探究型学習を学校教育全体で推進する。 2 全ての生徒の基礎学力充実のために、授業中心主義を徹底する。 3 生徒の授業評価による授業改善や研究授業を通じた授業力の向上を図る。 4 ICT機器及び環境を整備し、効果的運用を促進する。 <p>【読書習慣の形成と感性教育の推進】</p> <ol style="list-style-type: none"> 5 読書を心の糧とすべく、生徒が利用しやすい読書・学習の環境を整備する。 6 芸術鑑賞の機会を多く設け、豊かな感性を養う。 7 探究型学習にも対応する図書館環境を整備し、その活用を支援する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業改善に向けて、探究型学習を取り入れた授業の互観を年3回（内、他教科を1回）以上行う。 ・毎日の家庭学習時間を、年次＋2時間以上を目標に取り組ませる。 ・探究型学習の成果として、校外発表を年間50件以上行う。 ・読書を推奨し、年間一人平均15冊以上の読書量をめざす。 ・校内読書感想文コンクール等への積極的な応募を促し、提出率100%をめざす。 ・教科学習及び読書のための図書館及び図書資料の利用を積極的に推進する。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の互観について、目標達成できなかった。前期に授業公開が設定できなかった点が影響。 ・外部発表の場が無くなったりオンライン開催となったりしたが、生徒は限られた外部発表の機会に意欲的に応募した。 ・家庭学習時間について、2年生は目標に達しなかったが例年よりもよい結果だった。休校期間中の意識付けがよかったと思われる。 ・図書館は年度始め、閉館を余儀なくされたが、それ以降は消毒や換気、座席数の削減をしながら適切な利用を推進した。 ・図書委員会活動は、恒例の活動ができなかった代わりに新たな企画を立ち上げ、意欲的に取り組めた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・前期の段階から計画的な授業公開をお願いしていく。 ・オンライン発表の機会に対応できるよう、教員、生徒ともオンライン会議システムに習熟する機会を設けたい。 ・授業や部活動とのバランスが大切である。適切な課題の内容・量を教科・年次と連携しながら設定していく。 ・図書委員会主催の規格については今年実施した企画は好評であったので、来年も継続する予定。 ・今年中止にした芸術鑑賞は、今年の実案で実施したい。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナ禍においても、探究型授業の推進に積極的に取り組み、活動を継続できている。 ・正規授業や会議のオンライン化が進んでいないため、代替案を立てることができなかった行事があったことは残念である。 ・新型コロナ禍に高校生が何を感じ、時代や世界をどのように観察していたのかが、数年後の教育に役立てられるのではないか。アンケートなどを通して今の感覚を集めておくことを提案したい。 ・新型コロナウイルスの感染拡大に伴って、ウィズコロナ、ポストコロナの時代を見据えた対応が必要ではないでしょうか。従来どおり可能なもの、見直しが必要なもの、不可能なものを仕分けして、学習指導法を確立していく必要があると思います。ICTの活用、オンライン対応は中でも避けて通れないものと思います。 ・自らの針路を描いていく上で、本との出会いは重要です。本の魅力の世界に身を置くような体験をさせたいものです。 ・コロナ禍でいち早くオンライン授業に取り組んだ点、また探究型学習においても、課題の発表などを実施したことによって、学びが更に深まったのではないかと思います。このような状況でも、臨機応変に取り組むことができたことはすばらしいと思います。 ・令和2年度は、コロナ禍により、当初は中止や閉鎖を強いられたが、新型コロナウイルスの特質を踏まえ、少しずつ前進していると思われます。
進路指導	<p>【進路指導の充実とキャリア教育の推進】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 3年間を見通した進路指導を行うため、各年次で必要な指導について共通理解を持って進める。 2 超難関大学・医学部医学科への志望実現のための各教科の指導方法や研究を更に深める。 3 生徒が自己の在り方生き方を考え、自己実現に向けた進路選択・決定ができるように、「キャリア教育総合実践プログラム」に基づきキャリア教育を推進する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・進路指導・実践的教科指導について、本校の実情を踏まえ、グローバル化や他県・他校の状況を視野に入れながら、3年間を見通した指導内容や指導法の研究に努める。 ・東大・京大合格者数合わせて2桁を目指す。 ・難関大学、国公立大学医学部医学科の学校推薦型選抜・総合型選抜について研究を深め、現役合格者数のアップを図る。 ・キャリア教育推進のため、郷土研修・首都圏研修等で他機関と十分な連携を図る。また、生徒の学ぶ力を育むため、各課・各年次と共通した認識で指導を実践する。学業面だけでなく、生活の様々な悩みを解消し健全な心身の発達を目指すために、保健課との連携を深める。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・進路研修会で入試総括を行い、他県、他校の状況を分析。本校の現状と課題を把握。 ・入試関係の各種研究会はほとんどオンラインでの実施となったが、対面よりも多くの教員が参加できた。 ・超難関大志望者向けの外部講師による講義は、一部対面で、他はオンラインで実施した。オンラインだと集団で受講する必要もなくなるが、受講者どうしが切磋琢磨する機会が減少するのが課題。 ・学校推薦型・総合型選抜については東北大AOはじめ積極的に利用し、大きな成果をあげた。 ・首都圏研修はコロナ禍により中止した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・オンラインで行われる様々な催しに対し、より効果的な参加の仕方の工夫。 ・難関大等を志望する生徒の目標を支援するには、これまで以上に、低年次から基礎基本の定着が必要。そのために現在あるプログラムをしっかりと実施し、改善していく。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・変更の多い入試制度にもかかわらず、安定的な進路指導の結果が出ていることは高く評価できる。 ・進学指導や、その先のキャリアへの意識づけが、時代の変化に即しているのかが疑問である。 ・進路指導の到達目標を大学名に求めるのではなく、時代を先読みした新分野への知識と興味を深めるための指導も必要なのではないか。 ・生徒自身が進路意識を明確にして、そこから進路を選び取れるルートを改めて大切にしたいと思います。 ・海外の大学との交流も拡充していただきたい。 ・探究科設置3年目において、積極的に自己PRができる生徒が増えたことや、自己の進路を考える、決められる力がついたのではないかと思います。今後も更なる探究型学習の推進と多面的な進路指導をよろしくお願いいたします。 ・職業に対する夢があって、大学進学も方向性が決まってくると思われる。文系・理系の選択によって、職業が限られてくることも考え、その選択に対する指導がどこまでされているのか。
生徒指導・特別活動	<p>【いのちの教育と生徒指導の充実】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 かけがえのない「いのち」を大切にし、自分の「いのち」、他者の「いのち」を尊重する姿勢を育む。 2 基本的生活習慣を身に付けさせ、自律・安全の精神を養うとともに、生徒観察を充実させる。 3 生徒会活動と部活動を充実させ、自己実現を図り、連帯感を醸成する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・登下校時の安全を図り、交通事故ゼロをめざす。 ・学校内外を問わず、いじめを許さない人間性を育み、その防止に取り組む。 ・毎月の出席率平均が99.0%以上をめざす。前期において各年次の皆出席者を明確にし、1年間皆出席者を全校生の50%をめざす。 ・3年間の皆出席者を3年次生徒の25%をめざす。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・交通事故は9件で昨年より3件減少したが、ゼロを目指したい。 ・コロナ禍のため、前期の各種大会等が中止になったが、後期だけで、団体3種目、個人6名が全国出場を果たした。 ・後期に、生徒会を中心にして、除 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒会活動を活発にし、挨拶や身だしなみおよび交通安全への呼びかけ運動を徹底させていく。 ・コロナ感染予防を徹底しながら、部活動の活性化を図る。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・交通事故を減少させることができた。 ・出席率、皆勤目標については、新型コロナ禍による社会不安や家庭の考え方にも左右されるため、困難であったと理解できる。 ・できるだけ通常どおりの学習環境を生徒に提供しようとする姿勢は高く評価できる。

	4 社会参加の意識を高め、実践による自己拡大を促す。	<ul style="list-style-type: none"> 部活動等で団体5種目以上、個人種目10人以上の全国大会出場をめざす。 社会参加・ボランティアを促し、各種の地域・施設情報を特定掲示板で毎月定期的に紹介し、参加しやすい体制をとる。 		<ul style="list-style-type: none"> 雪ボランティアを実施することができた。 例年との比較は難しいが、生活リズムが取りにくい中でもしっかりと登校する生徒が多かった。 	<ul style="list-style-type: none"> 3年間皆出席者が減少している。無理する必要はないが、休まなくてもよい強い体と心を育てるために保健課などと連携していく。 		<ul style="list-style-type: none"> コロナ禍の中にあっても極力リアルなつながりを大切にし、目標を見失わないように指導してほしいと思います。 文武両道、部活動の取り組みはバランスを取りつつ、引き続き重視していただきたいと思います。 交通安全に対して、制服の改定を行い、反射材を導入し、防止対策につとめることはよいことだと思います。
健康 安全 指導 ・ 環境 整備	【健康の保持・増進と安全・安心な学校づくり】 1 心身の健康の維持・増進を図る。 2 危機管理体制をハード・ソフト両面から整備し、災害・事故の防止に努める。 3 学習環境の整備・保全とその美化に努める。 4 新型コロナウイルス等の感染症予防対策を徹底する。	<ul style="list-style-type: none"> 生徒保健委員会の「保健だより」年間8回、保健課発行の広報紙を年間8回発行して、心身の健康の保持増進を図る。 年18回のカウンセラー相談日を設定し、生徒・保護者との教育相談活動を充実させる。 清掃徹底日（毎週水曜日）と月例大掃除の取組みにより、校舎内外の環境美化に努める。 防災・災害対応訓練を年4回行い、危機管理意識の高揚と生活・校舎の安全を図る。 学校医と連携した保健管理体制を整え、感染症予防対策を徹底する。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 保健だより等は予定通り発行することができた。新型コロナウイルス感染症予防対策等についての呼びかけを重点的に行った。 清掃時のモップを使い捨てシーートの清掃用ワイパーに徐々に変更し、衛生管理に努めた。 防災関係の各種訓練等は年4回実施することができた。 校内外の修繕箇所調査を行い、危険箇所の把握に努め、事務部と連携し、補修・改善に努めた。 	<ul style="list-style-type: none"> 今年度に引き続き新型コロナウイルス感染症予防対策を実施していく。 生徒理解を深めるため、特別支援に関する教員研修を実施する。 校舎の破損箇所が目立つようになってきた。事務部と連携して対応していく。 限られた予算の有効活用のため継続して節約に努める。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 今年度は特に保健指導が問われたと思われるが、衛生管理から心のケアまで指導は行き届いていたと思われる。 行政からのウィルス対策指導に頼らず、学内での独自の対策が講じられている。 引き続き油断のできない状況であることを全学で共有できていることは高く評価できる。 心身の健康に十分留意し、今後も生徒のために取り組んでください。特にコロナで、うつ等にならないよう、注意喚起とコミュニケーションをよろしくお願ひします。 教室の冷房の設置は学習環境。生活環境の向上があったと思うので、本当によかったと思います。
家庭 地域 の 連携	【地域連携の促進と郷土愛の醸成】 1 学習活動や社会参加活動において、積極的に地域との連携を促進する。 2 地域コミュニティの一員として地域をよく知り、郷土やまがたに対する誇りと愛着を持った生徒を育てる。 3 学校・家庭・地域の連携を一層深める。	<ul style="list-style-type: none"> PTA総会・研修会（公開授業を実施）の出席率70%以上をめざす。 PTA会報を定期的に発行するとともに、保護者・学校評議員等の意見を聴き、経営改善に努める。 	B	<ul style="list-style-type: none"> PTA総会と3年次の研修会は実施できなかったが、1,2年次の研修会は実施することができた。どちらも70%以上の出席があった。学校評価アンケート結果も報告され、課題の共有がなされた。 1年次の「職業人インタビュー」は県外からの参加者はオンラインで実施したが、海外からの参加もあり、グローバルな視点が見られた。 2年次の「郷土研修」は感染症対策に注意しながら研修先の協力により予定通り実施できた。県内企業・研究機関への訪問を通して、郷土やまがたの現状と課題を認識し、地域貢献に対する意欲を喚起することができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 各種アンケートや行事等を通して、保護者・地域の意見をすい上げ、学校・家庭・地域との連携強化に努める。 地域で活躍する卒業生や県内企業・研究機関とのネットワークの整備をすすめ、より充実した企画を通して、郷土愛のさらなる涵養に努める。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 郷土研修、職業人インタビューなどを新型コロナ禍でも実行できていることは高く評価できる。 県外や東北圏外に進学する生徒の多い学校として、地域連携や郷土を題材としたプログラムを高いレベルで維持できていることは、もっと外部からも高く評価されるべきである。 地域との連携を重視しつつ、地域とのつながりを末永く持てる取り組みを積み重ねてもらいたいと思います。 地域企業との交流や研修の内容がより充実したこと、また探究型学習により理解が深められたことはとてもよいと思います。地域にもどってくる、あるいは地域を支援する人材をこれからも育ててほしいと思います。 郷土研修は継続してほしい。
学校 運営		<ul style="list-style-type: none"> 「山形県公立学校における働き方改革プラン」の趣旨を踏まえ、働き方改革を推進し、土曜講習等に伴う振替休暇等の取得率100%をめざす。 「エコ・環境保護」を合言葉に水道、光熱費及び消耗品費等の節約に努める。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 土曜講習等の振替休暇等取得率は各年次とも100%であった。 光熱水費対前年度比(2月15日現在)は次のとおりであった。 電気 1.1%(79,586円)減 水道 4.3%(177,985円)減 ガス 9.2%(80,993円)減 全体 2.7%(338,564円)減 	<ul style="list-style-type: none"> 業務の効率化等を通し、働き方改革を一層推進する コロナ対策としての手洗いを励行しつつ、電気のごまめなスイッチの切り替えなど教員及び生徒へ一層の節約に向けた周知の啓発を行う。 今後、改修等の機会を捉えて、照明のLED化に取り組む。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 校舎や施設の老朽化、教室内の照度や広さなど、施設空間のデザインが行き届いていないことが残念である。 環境やエネルギーに配慮した施設設計を施し、在学中に環境意識が高められるような校舎であってほしい。 働き方改革は時代の要請とも言えます。絶えず追求していく課題です。教育現場の活力を生み出す視点で前例にとらわれることなく取り組んでいただきたい。 改修工事とあわせて、職員1人1人の取り組みで、働き方や業務効率化、経費削減が少しずつできていると思います。引き続きよろしくお願ひします。